
スターチャイルド 江田ナーサリー

評価結果

2014年3月 公表

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関第26号 横浜市福祉サービス第三者評価指定機関第17号

評価実施機関：特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201号

TEL045-228-9117・FAX045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>



実施概要

事業所名	スターチャイルド《江田ナーサリー》	
報告書作成日	2014年3月3日	(評価に要した期間 5か月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター	

*評価方法

1. 自己評価	<p>【実施期間：2013年10月1日～2013年11月26日】</p> <ul style="list-style-type: none">・常勤職員は職員会議で施設長が趣旨説明をした後、各自で記入し、自己評価会議まで都度記入し進めた。・非常勤職員は、個々に施設長より趣旨説明をした後、勤務時間内に記入し、集計してまとめた。・自己評価会議で1項目ずつ意見交換しながら確認、全体をまとめた。
2. 利用者家族アンケート調査	<p>【実施期間：2013年11月15日～2013年11月30日】</p> <p>配付：全園児の保護者（28家族）に対して、園から手渡しした。 回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。</p>
3. 訪問実地調査	<p>【実施日：2014年1月8日、2014年1月15日】</p> <p>第1日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：書類調査～事業者面接調査（施設長）</p> <p>第2日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：職員ヒアリング（クラスリーダー5名、栄養士、非常勤職員1名）～事業者面接調査（施設長、統括マネージャー）</p>
4. 利用者本人調査	<p>【実施日：2014年1月8日、2014年1月15日】</p> <p>訪問日両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。 乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。</p>

評価結果についての講評

(高く評価できる点、独自性のある点、今後期待される点、工夫改善点などについての総括)

【施設の概要】

スターチャイルド 江田ナーサリー は東急田園都市線江田駅から徒歩約 3 分、商業地区のはずれの 3 階建の商業ビルの 1 階部分にあります。園の前の大通りを隔てて、遊水地と広い運動場があり、園から少し歩けばいくつもの公園や畑もあり、園児の散歩コースになっています。

園舎は細長く、玄関を入るとそのまま長い廊下が続き、廊下の右側はまず事務室、続いて 2～5 歳児のワンルーム保育室、トイレ、0～1 歳児のワンルーム保育室、突きあたりが厨房となっています。2～5 歳児のワンルーム保育室はカーテン等で仕切って 3 つの保育室としても使用します。廊下の左側は棚になっていて、子どものジャンパーや着替え、荷物、おもちゃ・教材類は全てこちらに収められています。園庭はありませんが、保育室に沿って南側に長いテラスがあり、砂場が設置されています。夏は、ここに目隠しネットを張り、プールを設置しています。

園は平成 16 年 12 月に開設され、運営は株式会社みつばです。スターチャイルド 江田ナーサリー の他に、横浜市に 5 園、川崎市とさいたま市にそれぞれ 1 園、認可保育所を運営しています。

定員は 30 名(0 歳児から 5 歳児)で、開園時間は平日は 7:00 から 20:30、土曜日は 7:00 から 17:00 です。保育理念は「わたしたちは、子どもたちの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばす保育を実践します」で、保育方針を「・よく考え、心身ともにたくましい子 ・個性の豊かな子 ・やさしさと思いやりのある子」としています。

1. 高く評価できる点

園全体で見守られ、子どもたちは日々様々な経験を積んでいます

ひとクラス 5～6 人という小規模保育園の良さが活かされ、一人一人の子どもに目が行き届き、職員全員が子どもたちを温かく見守っています。子どもたちは主として朝夕は 0 歳児と 1 歳児、2 歳児から 5 歳児までがそれぞれいっしょに過ごし、異年齢の子ども同士が自然に交わって遊んでいます。0、1 歳児は合わせて 10 人で保育士が 4 人、2～5 歳児は合わせて 23 人で保育士が 3 人、そしてフリー保育士と施設長にも見守られ、大きな家族のようです。年上の女の子をお姉さんのように慕っている子どももいます。カルタ遊びでは年上の子どもが札を読み、異年齢の子どもたちがそれなりに札を取って楽しんだりしています。日中は原則としてクラス別に活動しますが、4、5 歳児クラスの子どもの 3 歳児クラスの子どもの手をつないで散歩に行ったりという異年齢活動のプログラムも組んでいます。クラス別の活動は少人数で落ち着いてじっくり遊べます。特に制作活動は保育士が一人一人に丁寧に向かいあえるので、子どもたち全員が集中して取り組みます。また、全園児が集まってボランティアさんに絵本の読み聞かせを定期的にしてもらっています。

3 歳児以上のクラスでは英語教室や体操教室があります。英語教室では外国人の先生と触れ合い、体操教室では若いお兄さん先生と力いっぱい身体を動かします。5 歳児クラスは運動会の後は午睡がなくなり、就学前準備教室が始まります。保育士がカリキュラムを作っています。保育室を区切った一室で、他の年齢の子どもたちが午睡している静かな時間に、落ち着いて習字やひらがな、計算などを勉強しています。

そのような日々の園生活の中で子どもたちは異年齢・同年齢の子どもとの付き合い方、楽しみ方を体で覚え、外部の先生やボランティアさんとも触れ合い、一人一人が保育士にしっかりと見守られながら、様々な経験をしています。子どもたちは保育士を信頼し、朝から穏やかで、散歩に出れば自然に歌が出てくる、そんな園生活をおくっています。

職員はきめ細かく連携し、限りのある園舎のスペースを有効に活用しています

子どもたちの屋内活動スペースは、0～1歳児クラス用のワンルーム保育室、2～5歳児クラス用のワンルーム保育室、廊下です。保育士はこれらの空間すべてを多目的に有効活用して、日々の生活がスムーズに流れると共に、子どもが落ち着いて過ごせるように工夫しています。例えば、2～5歳児用のワンルーム保育室は臨機応変に3つの小保育室に区切ることができますが、仕切った時のトイレ側の小保育室は舞台のように一段高くなっています。ここは、トイレに行く前後の待機室であり、4,5歳児が給食の配膳が終わるまで紙芝居などを楽しむ部屋でもあり、各クラスが製作などをする小部屋にもなり、2歳児の午睡室、夕方の0歳児の保育室にもなります。舞台上る段は子どもが座って次の活動の準備を待ったり、お茶を飲んだりするベンチにもなります。また、廊下は単なる廊下ではなく、食後の歯磨きや着替えの場所、手洗いの順番を待つスペースに早変わりします。

このように多目的に活用される各スペースの使用法は複雑でありながら非常にスムーズで、入り乱れたりかち合ったりすることがありません。背後に保育士たちのきめ細かい連携と協力体制があり、また全体を見通して足りないところをカバーしていく施設長の配慮があります。各スペースの基本的な使用の流れは子どもたちも身につけていますが、その日、その日の状況に合わせ、保育士たちが臨機応変に連携し、子どもがある時は多人数で活動し、大きく動き、ある時は静かに落ち着いて遊び、生活できる、そのような園生活を提供しています。

2. 工夫・改善が望まれる点

地域支援に取り組む姿勢を

地域の子育て支援ニーズの把握について、園のこれまでの取り組みの結果では、この地域には子育てのニーズがない、というものでした。「園のごく近くは商業地域であり、駅近辺を離れると住宅地で自治会もあるが、多くは昔からの土地の住民で、高齢化が進んでいる地域である」という認識でした。しかし入園希望者が毎年30名以上あることから、隠されたニーズが発掘される可能性があると思われます。最近になって区が主導している「青葉区保育資源ネットワーク事業」と連携し、園として地域支援に取り組む構想が持ち上がっています。園単独では困難であっても、「青葉区保育資源ネットワーク事業」と連携する等、取り組み方を工夫し、新たな視点を持って地域に向き合う姿勢が打ち出されるよう期待されます。

保護者との情報交換に工夫を

今回の利用者家族アンケート結果では、戸外遊び、園外活動、について不満度が高く、様々な要望も出されています。しかし園としては園庭がないことを意識して戸外活動を取り入れる工夫・努力をしています。全クラスが日々散歩に行き、年齢ごとの運動のカリキュラムを作成し、広い運動場で体操教室も定期的に実施しています。その取り組みは保護者にはよく伝わっていないようであり、また一方、園外活動への保護者の不満が普段の意見としては出てこず、園では把握していないようです。

園の活動を保護者に伝える方法、保護者が意見を出しやすい状況作り等に関して現状を振り返り、園外活動に関する保護者の希望を正しく把握し、相互理解のうえで検討されることが期待されます。

子どもが主体的に遊べる工夫を

日々の生活において、全クラスの活動がスムーズに流れるように、子どもたちが待機する場面がかなりあります。例えば、保育士が次の活動の部屋の準備や昼食の準備をする間、トイレ・手洗いの順番待ちや終わったあと全員が揃うまでの間等々の場面です。そのような時に子どもたちはトイレの前の小保育室、廊下、舞台上る段を利用したベンチ等で静かによく待っています。おしゃべりをしたりもしていますが、そういう時間が子どもたちが自由に好きな絵本や気に入ったおもちゃ等を選んで遊べる場面になるような工夫が望まれます。



分類別評価結果



「ひょう太マーク」は、各評価分類の水準を表しています。

3 つ：高い水準にある 2 つ：一定の水準にある 1 つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と 保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念は「わたしたちは、子どもたちの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばす保育を実践します」と定めています。 ・ 保育方針を「・よく考え、心身ともにたくましい子（子どもたちの自立と挑戦を支援します） ・個性の豊かな子（子どもたちの個性を尊重し、長所を伸ばします） ・やさしさと思いやりのある子（社会性＝人とかかわる力を身につけます）」としています。 ・ 保育理念や保育方針を、玄関、事務室、職員更衣室に掲示し、職員の目に常に触れるようにしているほか、本社事業部が行う合同研修会の際、理念・方針を唱和しています。 ・ 保育課程は子どもの最善の利益を第一義にしている、保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しています。職員は、日々の保育の中で、子どもたちの意見や態度・表情・仕草などから興味・関心を汲み取り、指導計画の見直しに活かすようにしています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に 応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園説明会后、職員2名で保護者と面談し、あらかじめ保護者に記入してもらった子どもの生育歴や家庭での様子、家庭の状況などをベースに、子どもの発達状況などについて詳しく聞き取っています。また、面談の際に、子どもの様子を把握しています。 ・ 短縮保育（ならし保育）は、子どもの様子や保護者の就労状況などを踏まえて、保護者と個々に話し合いながら進めています。 ・ 0、1、2歳児は、連絡ノートを用いて、毎日保護者と丁寧に連絡をとっています。 ・ 進級後の4月当初は、職員は子どもの小さな変化も見逃さないように努めています。また、1歳児は、進級して2歳児クラスになると、年齢の高い子どものクラスと一緒に大きい部屋に移るので、前年度末の3月頃から、新しい部屋で過ごす時間を時々設けるなどして、環境が変わることによる不安を持つことがないようにしています。 ・ 子どもの発達や状況に応じて、月間指導計画、週案の作成・評価・見直しを行っています。評価、改訂にあたっては、朝夕送迎時の保護者との会話などから保護者の意向を汲み取り、指導計画に反映させるようにしています。

<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育室の通風・換気などを確保するようにしていて、時々窓を開閉して新鮮な空気を取り入れるなどの工夫をしています。 ・ 音楽などの音が他クラスの活動のさまたげにならないように、あらかじめクラスリーダー間でプログラムの内容などを打合せしています。 ・ 沐浴設備、温水シャワーとも、毎日清掃し、清潔に保つとともに、安全面などのチェックも行っています。 ・ 食事後、テーブルや椅子を片付けて、午睡の場所とし、食べる場所と寝る場所を、時間帯によって使い分けています。
<p>- 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児については、離乳食の進め方、トイレトレーニングなど、保護者と相談し、一人一人の発達に合わせた個別指導計画を作成しています。幼児については、特に配慮を要する子どもなどに対して、個別指導計画を作成しています。 ・ 子どもや家庭の個別の状況・要望や、入園後の成長発達記録を、個人別にファイリングして鍵のかかる書棚に保管しています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員は、横浜市などが行う特に配慮を要する子どもの保育や障がい児保育に関する外部研修に参加しています。参加した職員は研修報告書を作成し、他の職員が閲覧できるようにしたり、研修報告会で発表したりして、全職員が情報を共有できるようにしています。 ・ 児童虐待対応マニュアルを作成しています。その中に、虐待の定義を記載しているほか、対応手順をフローチャートで示し、全職員に周知しています。虐待が明白になった場合・虐待が疑わしい場合や見守りが必要な場合には、横浜市北部児童相談所、青葉福祉保健センターに通告・相談し、連携して対応することとしています。 ・ 食物アレルギー誤食事故防止マニュアルを作成しています。「除去食に対する主治医意見書」「食物アレルギー対応食申込書」を保護者から提出してもらい、それに基づき個別に対応した献立表をつくり、保護者にチェックしてもらっています。また、除去食を提供する場合は、専用の食器を用い、ラップで覆って名札をつけています。調理室から受け取るときや配膳する際に、職員同士で声を掛け合い確認するようにしています。 ・ 外国籍の子どもにたいしては、文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め尊重しています。 ・ 幼児クラスは、週1回程度、英語教室の時間があり、外国人講師が来園し、英語を楽しみながら文化の違いを子どもたちが知ることができるようにしています。

苦情解決体制



- ・ 苦情解決体制に関する規定を定め、その概要を入園時に保護者に配布し、口頭での説明もしているほか、園内に掲示しています。要望・苦情の受付担当者は事務員、苦情解決責任者を施設長としています。
- ・ 玄関に意見箱を設置しているほか、要望や苦情は、書面でなくとも口頭や電話でも受け付けることを保護者に伝えています。また、朝夕の送迎時などに、職員はできるだけ保護者に声かけをして、意見の出やすい雰囲気となるよう努めています。
- ・ 要望・苦情があったときは、会議などを通じて解決策を全職員に周知しています。また、要望・苦情への回答を園内に掲示しているほか、保護者の了解を得て、本社事業部のホームページでも公表しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃや教材は必要な都度、子どもの意思を汲みつつ保育士が出してきて与えています。2～5歳児用ワンルーム保育室には絵本の棚と紙芝居ラックが置いてありますが、その他のものは、保育室が出来るだけ広々と使用できるようにしているため、子どもが自分で取り出せる環境にはしていません。 ・子どもたちはそれぞれ自由にごっこ遊びや1人遊びを楽しんでいます。例えば公園などで、砂遊び用具でご馳走を作って何人かでごっこ遊びを楽しんだり、1人で黙々と砂遊びをしたりしています。 ・一斉活動の際には、年齢に応じて決められた約束事を守りながら、集会やゲームなどを楽しんでいます。 ・本社事業部が委託した保育園向けの英語・体操教師派遣会社からの講師が来園し、英語教室・体操教室を開いています。それぞれ3歳児と4、5歳児の時間を分け、年齢に応じてルールを守って楽しめるように指導しています。またボランティアによる絵本の読み聞かせがあり、0～5歳児全員を対象にしています。これらの活動からも子どもたちは一斉活動の楽しさとルールを学んでいます。 ・夏にはベランダ栽培で朝顔やひまわりを育て、観察日記をつけ、カブトムシの飼育箱を玄関において当番が世話をしました。 ・公園へ行く道中など、行き交う人々や馴染みのお店の人などと自然に挨拶を交わしています。 ・子どもが自発的に表現できるように、そのための時間を設け、子どもの興味や希望に沿って、クレヨンの箱や塗り絵の箱、貼り絵の道具などを保育士が出してきて、子どもが選べるようにしています。 ・子どもたちは散歩の際にも1人が歌を歌い出すと他の子どもも声を合わせたりして、自由に気持ちを表現しています。 ・子ども同士のけんかやトラブルは、原則として乳児の場合は保育士が間に入って互いの気持ちを代弁し、幼児の場合は、年齢に応じ、保育士の見守る中で子ども同士が話し合えるように配慮しています。 ・保育士は子どもに対して温かく優しい言葉をかけ、禁止語・否定語は使わないようにして、信頼関係を築いています。 ・全園児が室内ではハダシ、薄着を励行しています。 ・どのクラスも天気の良い日は年間を通して毎日散歩に出かけています。年齢によって出かける公園を選び、発達状況にふさわしい運動能力を高められる環境を配慮しています。 ・3歳児以上のクラスには体操教室で発達過程に応じて運動能力を高める指導をしています。

- 1

保育内容[生活]



- ・ 子どもの食べる意欲を大切に、食事の際は食べることに楽しく集中できるような言葉をかけたり、話題を選んだりしています。また、2歳児以上のクラスでは保育士や園長も一緒にテーブルを囲んで同じものを食べることで、和やかな雰囲気です。
- ・ 全クラスで食育計画に基づき、調理関係職員と共に皮むきやクッキングを経験することで、食事の過程への関心を育てています。
- ・ 保育室がそのまま食事の場となるため、雰囲気の違いを感じられるように、食事用に机と椅子を配置替えし、配膳が整ってから子どもたちが入室するように工夫しています。
- ・ 食材の安全性を考え、産地の明確なものを使用しています。また、食器の安全性から陶器と強化磁器を使用しています。
- ・ 子どもの好き嫌いは保育士と一緒に食事をしながら把握しているので、随時、またカリキュラム会議で栄養士に伝え、必要に応じて共に検討しています。食事は、食欲の湧く盛り付けを心がけています。
- ・ 園便りに「給食だより」コーナーがあり、そこに毎月一つ、家庭でも作りやすいレシピを提供しています。
- ・ 夏祭りの際にクラスごとに試食会を兼ねたお食事コーナーを設けています。保護者はほぼ全家庭が参加しています。昨年は「ハヤシライス、オレンジゼリー、麦茶」を1セットとして提供しました。
- ・ 午睡の前には静かに紙芝居などを見せて気持ちを静め、午睡の場は薄暗くし、保育士がついて安心して眠れるようにしています。
- ・ 0、1歳児クラスは布団を使用していますが、2歳児クラスより午睡用コット（簡易ベッド）を使用し、清潔に安心して眠れるようにしています。
- ・ 5歳児は運動会の終わった10月末頃より午睡を廃止し、40分間を就学前準備教室としています。習字カリキュラムと、ひらがな・計算・時計・迷路などのカリキュラムを作成し、それに従って実施し就学に備えています。
- ・ トイレトレーニングは個人差を尊重し、まず一人一人の排泄リズムを捉えるようにしています。また、保護者の意向を大切に、家庭に合わせて連携しながら進めています。

- 2

健康管理・衛生管理・
安全管理[健康管理]



- ・ 子どもの健康管理マニュアルがあり、それに従って一人一人の健康状態を把握しています。
- ・ 年に1回健康台帳を保護者に見てもらい、予防接種のチェックをしてもらっています。既往症についてはその都度保護者から情報を得、会議や連絡ノートで全職員に周知しています。
- ・ 食後の歯磨き指導は、歯科医である園医より全クラスに対する指導を保育士が受けて行なっています。0歳児クラスから3歳児クラスまでは2本の歯ブラシを用意し、1本は保育士が仕上げ用に用いています。

	<p>3歳児クラスからは、子どもが自分の歯ブラシで磨き、その後保育士が同じ歯ブラシで仕上げ磨きをしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の健康診断、年1回の歯科健診を実施していて、一人一人の健康診断・歯科健診の記録があります。 ・健康診断・歯科健診の結果は口頭だけでなく書面でも保護者に伝えていきます。 ・感染症マニュアルがあり、感染症への対応方法、登園停止基準などが明記されています。保護者へは「入園のしおり」にそれらが明記してあり、入園説明会で周知しています。また、園内にも登園停止基準を掲示しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・衛生管理マニュアルがあります。 ・マニュアルは年に1回は読み合わせをするようにしています。年度初めには園内の清掃手順の見直しを行い、秋には嘔吐処理シミュレーションを実施しています。 ・マニュアルに基づいて清掃などを行い、「おそうじチェック表」に日々チェックを入れ、園内を清潔に保っています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理マニュアルがあります。 ・地震などを想定して備品などには転倒防止マットやゴムなどをつける他、引き出し類の飛び出し防止の止め具や蛍光灯の飛散防止カバーを取り付けるなど安全対策を行なっています。安全管理マニュアルの他に事故防止マニュアル、事故発生時対応マニュアル、災害時対応マニュアルなども備え、事故や災害に適切に対応できるようにしています。 ・園内の危険箇所・危険物に関する「安全配慮チェックシート」「自主点検チェック表」「危険物管理チェック表」があり、事柄に応じて日々或いは毎月チェックし、安全を確保し事故を予防しています。 ・ヒヤリハット、事故報告書を作成していて、それらについて職員会議で話し合い、再発防止に努めています。また本社にも報告し、本社事業部が、運営する全7園の状況を集計した報告書を作成しています。その報告書は、全園の職員が再発防止の意識を高めるように、社内ネットワークシステムの職員情報サイトで公開しています。 ・「避難訓練計画立案及び実施報告書」に不審者対応マニュアルが含まれていて、不審者対応方法についても記載しています。 ・不審者対応の訓練を実施し、全職員が対応の仕方を周知しています。

人権の尊重



- ・子どもに対する態度や言葉遣いに関しては、不適切な言動がないように職員間で日々気づいたことを相互に話し合い、また職員会議でも取り上げて話し合っています。
- ・「否定語、禁止語は極力使わず、肯定形による前向きな言葉がけを意識すること」という保育姿勢を明文化し、全職員が周知し、実践しています。
- ・保育室は出来るだけ広々と使用できるように、遮るものを置かないようにしているため、友だちや保育士の視線を意識せずに過ごせる場所は特に設けていません。
- ・必要に応じて、保育室の隅の方、廊下、事務室などで子どもと1対1で話し合える場所を工夫して作っています。
- ・守秘義務の意義や目的は職員の初任者研修で周知しています。ボランティアや実習生に対しても、説明して同意書・誓約書を書いています。
- ・個人情報に関しては、本社がプライバシーマークを取得していて、園内でも全職員に個人情報確認テストを定期的実施し、個人情報の取り扱いについて周知しています。
- ・差別の禁止マニュアルを作成していて、性差や身体に関する差の表現、差別用語などについての禁止事項を定めています。
- ・遊びや行事の役割、服装、順番やグループ分けなどについて性別による区別はしていません。
- ・無意識に性差による固定観念で保育をしていないか職員同士で反省する仕組みを特に作ってはいませんが、日常的に自然に、また必要に応じて、話し合っています。

保護者との交流・連携



- ・保護者に対して園の保育の理念や保育方針について、入園前の見学時から伝え、入園説明会の時にも説明し、玄関にはパネルで掲示し、周知を図っています。
- ・保護者が理念などを理解しているかを把握するためのアンケートなどの取り組みは実施していません。
- ・乳児クラスは育児日誌を兼ねた連絡帳と送り迎えの際の話し合いで、日々保護者と情報交換をしています。
- ・幼児クラスは日々の活動をホワイトボードで知らせるほか、送り迎えの時に口頭で子どもの様子を知らせるようにしています。
- ・3歳児クラスになると英語教室や体操教室が始まるなど変化が多いため、3歳児クラスへの進級に向けて、2歳児クラスの全員に個別面談を実施しています。他のクラスの子どもに関しては、保護者の希望に応じて実施しています。
- ・保護者懇談会を年に1回、年度末の3月に進級するクラスに分かれて実施し、次年度の状況や進級に向けての話し合いをしています。また、保護者参加の行事の度ごとにクラスで集まって懇談をしてい

ます。

- ・ 保護者からの相談には随時応じています。相談には担任以外に園長も同席し、園で対応が難しい場合には本社事業部にも連絡し、フォローを受ける体制が整っています。
- ・ 月に1回園便り「きらきらだより」を発行し、ここに各クラスの様子や行事などのお知らせの他に給食だよりもクラスだよりも掲載しています。
- ・ 日常の保育の様子は園長や保育士が写真を撮って園内に掲示し、それらは専門業者に入ってもらって販売もしています。
- ・ 本社事業部のホームページにはブログもあり、園の様子などを知らせています。
- ・ 年間行事予定表を年度初めに保護者に配布しています。また、保護者の希望があれば保育参観を随時受け入れています。
- ・ 保護者が自主的な活動をしたい場合、園舎の一部を活動場所として提供する準備はありますが、現在のところ、保護者の活動は無く、保護者組織もありません。
- ・ 園と保護者との意見交換の場は特に設けていません。今回の保護者アンケートでは「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」について25%以上の不満がでていることから、何らかの取り組みが望まれます。

評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民からの育児相談を受け付け、それらの相談の中から地域の子育て支援ニーズについて把握するようにしていますが、特にニーズは出て来ていません。 ・ 園として地域向けの子育て支援サービスは現在のところ実施していません。
<p>- 2 保育所の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児相談は、相談日は設けずに、随時受け入れています。実績は年に3件程度です。 ・ 保育所からのお知らせを地域に回覧などはしていませんが、入園希望で見学に来た地域の人に運動会の招待状を出しています。 ・ 関係機関と連携をする場合には担当者は園長と決め、連携の体制はありますが、相談内容が関係機関などとの連携が必要なものがないため、日常的な連携はしていません。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育所の地域開放・ 地域コミュニティへの 働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体や機関などと計画的な交流はしていません。 ・中学校に働きかけ、職業体験ボランティアなどを募集していますが、現在のところ希望は出ていません。 ・小学校の公開授業には保育士が積極的に参加しています。また、保育園の見学に来た地域の人を運動会に招待しています。 ・月2回の体操教室は地域の公園の運動場を利用して、運動会は近隣の小学校で行なっています。 ・天気の良い日には全クラスが散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、簡単な会話をしたりしています。 ・5歳児クラスは小学校との交流会があり、近隣の保育園とも交流があります。 ・地域の行事や活動のチラシを玄関において自由に持っていけるようにし、地域の情報を提供しています。
<p>- 2 サービス内容等に関する 情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・本社事業部がホームページを作成し、広く情報を外部に提供しています。またパンフレットや園の概要を説明する冊子も作成していて、園に見学に来る人に配布しています。 ・子育て情報サイトに園の情報を提供しています。 ・園の見学が出来ることは区がらせています。 ・見学は保育に支障をきたさず、且つ見学者が子どもたちの主活動を見られる平日の午前を勧めています。見学者の事情により他の時間帯でも対応しています。 ・次年度入園希望の見学者が秋に30名ほどあり、1回につき4、5名をグループにして見学してもらいました。その際に育児相談も受けました。
<p>- 3 ボランティア・実習の 受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受け入れ規定を作成していて、それに基づいてボランティアに説明し、ボランティア活動の確認書と守秘義務に関する誓約書を提出してもらっています。 ・現在、絵本やパネルシアターを使った読み聞かせボランティアが来てくれています。2か月に1回来園し、0～5歳児の子ども全員が集まって読み聞かせをしてもらっています。 ・実習生受け入れマニュアルがあり、それに基づいて園の方針や実習心得について実習生に説明しています。 ・実習は学校からの実習プログラムに沿いつつ、全クラスに入ってもらい小規模園の特徴を把握できるようなプログラムを工夫しています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修計画に基づき、横浜市などが行う外部研修に職員が参加しています。また、園内研修や本社事業部での合同研修および初任者・中堅職員・リーダークラス職員・主任などを対象とした・階層別研修が行われています。 ・ 外部研修に参加した職員は、研修報告書を作成し、他の職員が閲覧できるようにしたり、研修報告会で発表したりして、全職員が情報を共有できるようにしています。また、研修報告書を提出した職員は、研修の成果を自ら振り返り、3ヵ月後に事後報告書を提出することが義務付けられています。 ・ 職員は、個人目標シートに基づき、自己目標を設定し、年2回、施設長と面談し達成度の評価を受けています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部研修や本社事業部の施設長交流会などで得た良いサービス事例などを、職員会議で報告し、情報を共有するとともに、どのように取り入れるかなどを議論しています。また、保育分野の運営・技術支援を手がけるNPO法人から、保育技術の評価・指導などを受けています。 ・ 職員は、年間指導計画の振り返り・評価、個人目標シートによる自己目標設定と達成度評価などで自己評価を行い、次年度の自己目標設定に活かしたり、指導計画に反映させたりしています。 ・ 保育園全体の自己評価を、保育理念や保育方針、保育課程に沿って行うまでには至っていません。
<p>- 3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の保育や保護者との対応など、できるだけ現場の職員に任せるとしています。また、園内の係りの分担や、主要行事・活動の分担などを明確にすることで、モチベーションの維持・資質の向上につなげています。さらに、会議の場だけでなく、いつでも施設長に、改善提案したり意見を述べたりできることが職員ヒアリングで確認されました。本社事業部も直接職員にアンケートを実施し、改善提案などを募っています。 ・ 初任者・中堅職員・リーダークラス職員・主任など、経験・能力に応じた専門知識・技術などの期待水準を明文化するには至っていません。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国保育士会倫理綱領の読み合わせを行い、職員に周知しています。また、他施設での不正・不適切な事例を入手したときは、会議などで取り上げ、職員に啓発しています。 ・ 子どもたちの製作物の材料として、廃材・空き箱を利用したり、コピーには裏紙を使用したり、ゴミ減量化・リサイクルに取り組んでいます。また、不要な電気をこまめに消したり、エアコンの温度設定を適切にしたり、省エネルギーに取り組んでいます。しかし、環境配慮の取り組みを、園の目標や運営方針として明文化するには至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念・保育方針は、玄関だけでなく事務室や職員更衣室にも掲示し、常に職員の目に触れるようにして、年度初めなどに、施設長が保育理念・保育方針などを職員に説明しています。また、本社事業部が全職員を対象とした合同研修を行い、保育理念・保育方針を唱和し、代表取締役が説明して理解促進を図っています。 ・ 重要な意思決定がされたときは、職員会議で、目的・決定理由・経過などを十分に説明しています。また、保護者には文書を配布するとともに、園内に掲示し、職員が口頭で説明しています。しかし、重要な意思決定前に施設長が保護者と意見交換する仕組みはできていません。 ・ 当園には、職制上、主任という役職名はなく、リーダー保育士と称しています。リーダー保育士は、カリキュラム会議、職員会議などで、各職員の業務状況を把握しているほか、個々の職員の能力や経験に合わせ、的確な助言や指導を行っています。気がついたことは、できるだけその場で伝えるように努めています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業運営に影響のある情報は、主として本社事業部が収集・分析しています。そのうちの重要な情報は、施設長が職員に説明しているほか、社内ネットワークシステムである職員情報サイトで、全職員が閲覧できるようにしています。 ・ 本社事業部が、中期経営計画（2013年度～2015年度）を定め、運営やサービスの新たな仕組みを検討しています。また、保育分野の運営・技術支援を手がけるNPO法人と契約し、運営に関する指導を受けています。 ・ 運営委員会は、それぞれの保育園ごとではなく、本社事業部で一つとしています。各保育園保護者代表1名ずつ、会社関係者、外部委員で構成され、年1回、会議が開催されています。

利用者家族アンケート分析

【実施概要】

実施期間：2013年11月15日～2013年11月30日

実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。

回収率：配付28件、回収15件、回収率53.6%

回収率が約半数なので、以下の意見・コメントなどは、必ずしも全保護者の声を反映しているとは限りません。

【結果の特徴】

【問1】の「保育目標・保育方針」については、73%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答え、その全員が、目標や方針について「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。

【問2】～【問7】までの設問では、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した割合が、合わせて90%以上となっている項目が多数あります。その内、合わせて100%と高い評価を受けたのは、次の4項目です。

* 「園と保護者との連携・交流」中の“園の行事の開催日や時間帯への配慮”

* 「職員の対応」中の“子どもが大切にされているか” “子どもが保育園生活を楽しんでいるか” “話しやすい雰囲気・態度であるか”

“とても親身になって対応してもらっている” “いつもやさしく接して下さり、全面的に信頼して任せられています” などの声があります。

【問2】～【問7】までの設問中、「どちらかといえば不満」「不満」の割合が多かった項目を上から5つ挙げると、次の通りです。

* 「日常の保育内容(遊び)」中の“子どもが戸外遊びを十分しているか”・・・46.7%

* 同上 “自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動”・・・40.0%

* 同上 “遊びを通じた子どもの健康づくりへの取り組み”・・・33.3%

* 「日常の保育内容(生活)」中の“昼寝や休息が子どもの状況に応じて対応されているか”26.7%

* 「園と保護者との連携・交流」中の“保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会”26.7%

“異年齢の子どもとの交流や体操・英語などの外部活動が充実している” などの声がある一方で、“戸外遊びの時間がもう少しあっても良いと感じる” “散歩の距離が短すぎる” “鉄棒、ドッジボール、ボール投げ、縄跳びなどスポーツに力を入れて欲しい” “人数が少ないので団体スポーツができていない” などの意見があります。

【問8】の「総合満足度」は80%です。(「満足」53.3%、「どちらかといえば満足」26.7%)

利用者家族アンケート集計結果

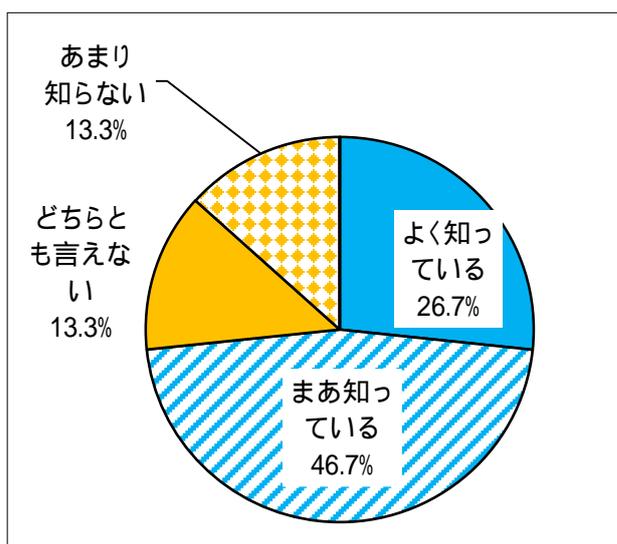
調査期間： 11月15日～11月30日

回収率： 53.6% (28件配付、15件回収)

	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
クラス別回答数	4	1	5	2	1	1	1

(%)

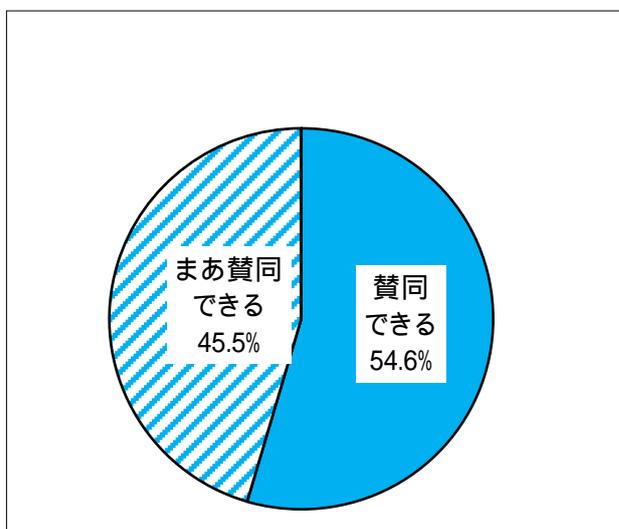
問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	26.7	46.7	13.3	13.3	0.0	0.0



付問1:

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	54.6	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0



問2: 入園する時の状況について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
見学の受入について	53.3	33.3	0.0	0.0	13.3	0.0
入園前の見学や説明など、園からの情報提供について	46.7	33.3	13.3	0.0	6.7	0.0
園の目標や方針についての説明には	26.7	53.3	6.7	0.0	13.3	0.0
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育暦などを聞く対応には	53.3	33.3	6.7	0.0	6.7	0.0
保育園での1日の過ごし方についての説明	53.3	33.3	6.7	0.0	6.7	0.0
費用やきまりに関する説明に	53.3	33.3	0.0	0.0	13.3	0.0

問3: 年間の計画について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	53.3	40.0	6.7	0.0	0.0	0.0
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか	6.7	66.7	13.3	0.0	13.3	0.0

問4: 日常の保育内容について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
「遊び」について						
クラスの活動や遊びについては	46.7	46.7	0.0	6.7	0.0	0.0
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	26.7	26.7	26.7	20.0	0.0	0.0
園のおもちゃや教材については	46.6	40.0	0.0	6.7	0.0	6.7
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	33.3	26.7	33.3	6.7	0.0	0.0
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分持っているか	53.3	33.3	13.3	0.0	0.0	0.0
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
「生活」について						
給食の献立内容については	46.7	40.0	0.0	0.0	13.3	0.0
お子さんが給食を楽しんでいるか	53.3	40.0	6.7	0.0	0.0	0.0
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについて	53.3	33.3	0.0	6.7	6.7	0.0
昼寝や休息がお子さんの状況に応じて対応されているか	60.0	13.3	20.0	6.7	0.0	0.0
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているか	46.7	26.7	6.7	0.0	20.0	0.0
お子さんの体調への気配りについて	53.3	40.0	6.7	0.0	0.0	0.0
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	66.7	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7

問5： 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
施設設備について	26.7	46.7	13.3	6.7	6.7	0.0
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか	46.7	46.7	0.0	6.7	0.0	0.0
外部からの不審者侵入を防ぐ対策について	40.0	40.0	13.3	6.7	0.0	0.0
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について	40.0	40.0	6.7	0.0	6.7	6.7

問6： 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について	20.0	40.0	26.7	0.0	6.7	6.7
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供について	60.0	33.3	0.0	0.0	6.7	0.0
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換について	53.3	33.3	6.7	6.7	0.0	0.0
お子さんに関する重要な情報の連絡体制について	53.3	26.7	13.3	0.0	6.7	0.0
保護者からの相談事への対応には	40.0	53.3	6.7	0.0	0.0	0.0
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる対応には	60.0	33.3	0.0	0.0	0.0	6.7

問7： 職員の対応について

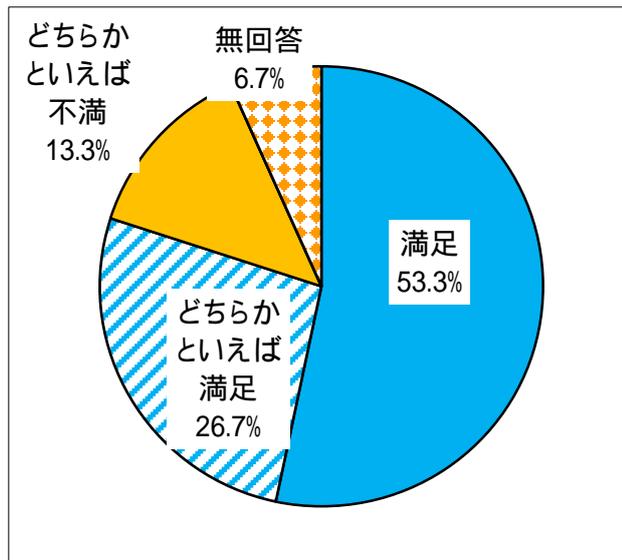
(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされてされているか	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているか	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮について	46.6	20.0	0.0	0.0	26.6	6.6
話しやすい雰囲気、態度であるかどうか	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
意見や要望への対応について	26.7	46.7	13.3	0.0	6.7	6.7

問8： 総合的な評価

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	無回答
総合満足度は	53.3	26.7	13.3	0.0	6.7





利用者本人調査

【実施概要】

実施日時：2014年1月8日、2014年1月15日

実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

0、1歳児クラス

朝8時前には子ども1~2人保育士1人で、床に座って一緒にブロックでトンネルを作ったりして遊んでいました。部屋には、床にブロック、机に型はめ遊びのおもちゃが用意してありました。次々と親子で登園して来て、保護者は検温をしたり朝の準備をしながら子どもの様子を保育士と話し合います。登園してきた子どもに前からいた子どもが「はい、どうぞ」とブロックを渡したりして、朝から和やかです。子どもは皆ハダシで薄着です。1人ジャンパーを脱ぎたくない子どもがいましたが、保育士はこの時は無理に脱がせようとはしていませんでした。子どもが多くなり、にぎやかになってきました。前から遊んでいた子どもがブロックのトンネルに車を走らせているのを見て、後から来た子どもが口々に保育士に「ちゃんのトンネルは？」と頼み、保育士は「じゃ、作ろうね」とみんなにトンネルを作ってあげました。子ども同士でもブロックのやりとりや会話があります。「これ、誰のお家？」「ちゃんのだよ。」「ちゃんのママは？」「お仕事」などなど。大きな窓から隣の駐車場が見え、「アウディ」「ホンダ」などと指さして言う子どももいます。遊びに飽きて来て部屋を走り回る子どもが出てきた頃、お片づけになりました。

朝の集会は0、1歳児一緒に、紙芝居等も一緒に見ます。この日は0歳児4名、1歳児5名でした。主活動になると0歳児と1歳児の2クラスに別れ、散歩も子どもたちに合ったコースをそれぞれ選びます。1歳児クラスは片道30分近く歩く公園に行きました。道々お店の人に挨拶したり、犬の散歩に出あって喜んだり、車が来るとまとまって立ち止まり、行きすぎるのを待ったりして歩きます。誰からともなく歌を歌い出すと皆が声を合わせて歌ったり、おしゃべりがはずんだり、長い距離も楽しく歩きます。公園で一番盛り上がったのは砂場と小屋でのままごとでした。砂場でごちそうを作り、小屋に運ぶと、「ピンポン」とお客様が来ます。「ハイハイ」「入れて」「いいよ」そんなやりとりをわれもわれもとやりたがり、そのうちに保育士も入って小屋でのごちそうパーティになりました。

園にもどると0歳児クラスの子どものたちは既に食事中でした。4人の子どものうち2人は離乳食で、テーブル付きの椅子に座り、スプーンは持たず保育士に全部食べさせてもらっていました。子どもはほしいものを指さしたり、スープを飲ませようとするともう十分だったのか嫌がって泣いたりして意思表示をしていました。後の2人は完了食でスプーンを持ち、保育士に手伝ってもらいながらほとんどこぼさずにきれいに食べていました。保育士は「もぐもぐ」「おいしいね」などと優しく言葉をかけていました。

2~5歳児クラス

ワンルールの保育室には紙芝居ラックと絵本の棚があるほかは、おもちゃや教材類は置かずに廊下の棚にしまっており、保育士がその都度子どもの遊びたいものを考えて用意します。この日の朝は床にブロック2種、少し離してままごと道具。机にトランプやカルタが置いてあり、子どもが好きなのを選んで遊べるようになっていました。8時前には子どもは2~3人、保育士が1人で、一緒にブロックで遊んでいました。1人、また1人と登園して来て、玩具を選んで遊び始めます。保護者は保育士と二言三言言葉

を交わし、また玄関付近で施設長と談笑したりして出かけていきます。次第に用意してあったおもちゃでいくつかの遊びのグループができてきます。2～3人の小さいグループは同年齢の仲良しのようにトランプやブロックなどをしている、大人数のグループは異年齢のようでカルタ遊びなどしていました。1人でままと道具で遊んでいる子どももいました。

9時近くなると片づけて、2～5歳児が年齢ごとに並び、「前へならえ」「なおいれ」の号令で前後に距離をとり、リズム体操が始まりました。続いて集会です。一人一人の名前を呼んで出席確認が終わると2歳児は退場し、ワンルーム保育室をカーテンで仕切った小保育室へ行きました。集会はその後も続き、5歳児のその日の当番が前に出て「がんばります」と挨拶します。当番はその後3クラス分の歯ブラシとコップの入ったカゴを運んできたり、皆にシールノートと出席シールを配ったりします。子どもたちはお茶を飲み、シールを貼り、その後クラスに分かれた活動が始まりました。

・2歳児クラス

2歳児は5名で、小保育室でおやつ、トイレ、そして公園に行く準備です。トイレでは保育士に見守られてほとんどの子どもが自分でズボンの上げおろしをしていました。公園に行く途中、立ち止まって畑の野菜を皆で見ていると、畑のオーナーのおばさんが「見てらっしゃい」「これはイチゴ、まだ酸っぱいよ」と、もいで持ってきて見せてくれました。「また来てね。」「ありがとうございました」とお礼を言ってまた歩き、公園に着くと、鬼ごっこ、すべり台、砂場、鉄棒と、さまざまな遊びをみんなでしましたが、すぐに帰る時間になってしまいました。

園に戻って、製作の時間。白いボール紙で作った小さな箱でチョコレートケーキをつくります。茶色の色紙をちぎって、糊をつけて、白い部分が見えなくなるように重ねて貼っていきましたが、食事の時間になったので、途中でやめて次の機会に続きをやることになりました。

・3歳児クラス

出席シールを貼りお茶を飲んだ後、子どもたちは飲み終わったコップを持って隣の小保育室へ行きます。すでに2歳児は散歩に出かけていて、小保育室は空いています。保育士たちは上手に連携しています。この部屋には水道が二つあり、子どもたちは並んで順番にコップを洗ってカゴに入れ、トイレに行きます。保育士がずっと見守ってついています。トイレが終わった子どもは小保育室に並んで座り、皆が揃うのを待ちます。そして皆一緒に廊下に行きます。5名です。廊下に一人一人の荷物置きがあり、そこからジャンパーを持ってきて、体操教室に行く準備です。子どもたちは、体操の先生や保育士と一緒に手をつないですぐ近くの広い運動場に行きました。その日はボール遊びでした。先生は、話しをよく聞き、模範の動きをよく見て、同じように動くことを指導していました。例えば、投げられたボールを受けとり、走り、紐で作った蛇の上をジャンプして目印のところを回ってもどる、というやり方を話し、実際に動いて模範を見せません。先生も保育士も、子どもがその通りに出来ると大いに褒めますが、出来なくても強制はしません。やり方が分かった子どももよく分からない子どもも楽しそうに走っていました。

・4,5歳児クラス

3歳児が運動場からもどってくる前に4,5歳児は体操教室の準備をして、3歳児がもどってくるのを玄関で待ち、入れ替わりに運動場へ行きました。4,5歳を合わせて11名です。体操の内容は同じボール遊びでも4,5歳児では中当てゲームをしていました。ボールに当たらないコツを実例を示しながら先生が説明していました。ボールに当たらないように上手に逃げる子どももいれば、分かったと納得したと思っても実際のゲームになるとすっかり忘れて教えられたように逃げられずにボールに当たってしまう子どももいます。縄跳びにも挑戦しました。何回やっても足にひっかかって跳べない子どもが泣くと、先生は「頑張ろう、ひっかかるのは悪くない。」と励ましていました。先生は子どもたちが先生の話を目と耳でし

っかり聞くことを繰り返し指導していました。遊びと遊びの間の休み時間が終わって先生が位置についてもワイワイガヤガヤしていると、先生は黙って立っています。気がついた子どもが「みんな、静かにして！」と注意する場面もありました。園にもどると子どもたちは廊下の壁に背をつけて座り順番に小保育室へ行き、手洗い、うがい、トイレとなります。それが終わった子どもは小保育室で座っておしゃべりなどしながら皆が揃うのを待ちます。その間に5歳児の当番2人は給食の配膳を手伝う当番活動へ向かい、その他の子どもたちは保育士の紙芝居などを見ながら、配膳が終わるのを待っていました。

まとめ

子どもたちは生活のルールを守り、落ち着いて園生活をおくっています。0、1歳の頃から、日々の生活の流れを理解すること、集団で行動することを指導されています。少人数なので保育士の目が行き届き、悪ふざけする子どももなく生活の流れはスムーズです。順番に行動すること、待つことも指導されていて、おだやかに静かに待っています。外遊びでは元気な歓声や歌声が聞かれました。



事業者コメント

第三者評価受審にあたり保育士、栄養士、調理員、事務員等園の全ての職員で自己評価に取り組みました。

会議を重ね、ひとつひとつの項目を丁寧に確認していく中で当たり前の様に行っていたことを見直すことができ大変良い機会になりました。

また話し合いを通し私たち職員が改めて同じ方向を向き今まで以上に連携が深まったことが何よりの収穫だと感じています。

今回この評価に携わって下さった皆様に深く感謝いたします。

評価結果をこれからの保育の励みと課題として役立てて参ります。

これからもスターチャイルドとして「子どもたちが輝く」保育を職員一丸となって取り組んでいきたいと思えます。

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号
横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>



特定非営利活動法人
**よこはま
地域福祉
研究センター**

Yokohama Community development Research center
